

— 令 和 7 年 度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令 和 7 年 7 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和7年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和7年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語 10～11	
社会 12～13	
数学 14～16	
理科 17～19	
英語 20～21	

令和7年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

受検者数・合格率の推移		
	受検者数	合格率
令和3年度	3,632名	92.4%
令和4年度	3,696名	91.1%
令和5年度	3,543名	93.0%
令和6年度	3,673名	91.3%
令和7年度	3,522名	91.8%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

	結果の分析
総合	5教科総合の平均点は97.0点で、昨年度より4.6点下がった。200点以上の受検者の人数が一桁となり、74点以下の受検者が全体の三分の一を占めた。知識・技能については、一定程度定着しているが十分でない分野・領域もあり、それらを活用して思考・判断する場面において課題がみられる。また、問題文を読み取って正しく解釈したり、文章で適切に表現したりする力にも課題があり、事象や概念、自分の考えや意見を形成したり、説明したりするうえで妨げとなっている。
国語	平均点は23.4点で、昨年度より1.7点上がった。漢字の読み、行書の基礎的な書き方、情報の取り出しについては一定の力が認められる。文法の基礎的事項、情報と情報の関係についての理解が十分とは言えない。また、目的に応じて文章の内容を把握して要約することに課題がある。
社会	平均点は22.2点で、昨年度より3.2点上がった。日常の社会生活と知識が結びついた問題については、正答率が高い傾向にある。しかし、全分野を通して基本的事項の定着が十分ではない。また、資料から情報を読み取り論述する問題については、問題の意図を正しく捉え、情報を正確に読み取る力や、根拠をもって論理的に表現する力に課題がある。
数学	平均点は18.8点で、昨年度より0.5点上がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われる。文字を用いた式の計算や処理をする力、文字を用いて表現する力は十分とは言えない。また、思考・判断・表現する力を問う問題において、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考え説明できないといった課題がみられる。
理科	平均点は14.0点と昨年度に比べ5.9点下がった。第1分野・第2分野ともに、科学用語や観察・実験の技能、科学的事象についての知識の定着が十分ではない。また、実験結果をもとに思考・判断して表現する問題や、事象が生じる原因を説明する問題では、問題文の指示に従った解答が書けていなかったり、文章で適切に表現できていなかったりする課題がみられる。
英語	平均点は18.6点で、昨年度より4.3点下がった。どの領域においても昨年度より点数が下回っているが、特に日常的な話題について、情報を聞き取る力が十分でない。また、聞いたり読んだりした話題に対して自分の考えを英語で書く際には、考えを構成するのに必要な情報まで十分に把握することができていない。また、基本的な語彙や文法事項が定着しておらず、自分の表現したいことを正確に書くことに課題がある。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

各教科で主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行い、言語能力の育成と、基礎的・基本的な知識・技能の習得を一層図るとともに、教科横断的に知識・技能を活用して思考・判断・表現する力を育む。

I 令和7年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数	(併設中学校からの進学者を含む。)
全 日 制	5,090	3,464	
多 部 制	200	111	
定 時 制	560	68	
合 計	5,850	3,643	

○定員充足率 (%)	前年比 (ポイント)	
全日制の課程	68.1	-3.6
多部制の課程	55.5	+11.0
定時制の課程	12.1	+1.7

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,090	3,363	3,087
多 部 制	120	98	87
合 計	5,210	3,461	3,174

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	91.8	+0.5	全日制の課程	276	-29
多部制の課程	88.8	+7.6	多部制の課程	11	-2

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数	※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。
全 日 制	61	60	

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,812	200	180
多 部 制	114	25	22
定 時 制	560	58	52
合 計	2,486	283	254

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	90.0	+8.3	全日制の課程	20	-22
多部制の課程	88.0	+17.3	多部制の課程	3	-9
定時制の課程	89.7	+0.8	定時制の課程	6	+1

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	64	2	2
定 時 制	508	17	16
合 計	572	19	18

5 定員内不合格

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和7年度	87	1	29

令和7年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学 校 名	学科（科）名	入 学 定 員	A日程			B日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数				
室 戸	総 合	80	44	44	40	40	2	2	2	42	38	42	
安 芸	普 通	120 (101)	26	26	26	75	2	2	2	47	73	47	
	工 業（機士）	機械 土木	20 (19)	4	4	3	16	0	0	0	4	16	4
	工 業		20 (20)	7	7	6	14	1	1	0	6	14	6
	商 業（ビジネス）	40 (38)	22	22	22	16	2	2	1	25	15	25	
城 山	普 通	80	31	27	20	60	8	8	7	27	53	27	
山 田	普 通	80	56	56	54	26	13	13	13	67	13	67	
	探 究（グローバル）	80	25	25	23	57	5	5	5	28	52	28	
	商 業（ビ探）	40	19	17	16	24	5	5	5	21	19	21	
横 北	普 通	80	17	17	17	48	0	0	0	32	48	32	
高知農業	農 業（農総）	40	47	47	40	なし				40	0	40	
	農 業（畜総）	40	35	35	37	3	1	1	1	38	2	38	
	農 業（森総）	40	25	25	29	11	2	2	1	30	10	30	
	農 業（環土）	40	24	24	24	16	4	4	4	28	12	28	
	農 業（食ビ）	40	50	50	40	なし				40	0	40	
高知東工業	農 業（生総）	40	37	37	36	4	0	0	0	36	4	36	
	工 業（機械）	40	20	20	19	21	7	7	5	24	16	24	
	工 業（機械シス）	40	18	18	18	23	2	2	2	20	20	20	
	工 業（電子）	40	17	17	17	23	4	4	4	21	19	21	
	工 業（電機）	40	11	11	10	30	3	3	2	12	28	12	
岡 豊	普 通	240	298	293	240	なし				240	0	240	
	普 通（芸術コース）	40	28	28	24	16	4	4	2	26	14	26	
	普 通（体育コース）	40	52	52	40	なし				40	0	40	
高 知 東	総 合	200	175	175	165	35	19	19	19	184	16	184	
	看 護（看護）	30	14	14	12	18	0	0	0	12	18	12	
高知工業	工 業（機械）	40	45	44	40	なし				40	0	40	
	工 業（電気）	40	36	35	36	4	2	2	2	38	2	38	
	工 業（情技）	40	32	29	27	13	5	5	5	32	8	32	
	工 業（工化）	40	32	31	32	8	1	1	1	33	7	33	
	工 業（土木）	40	42	42	40	なし				40	0	40	
	工 業（建築）	40	34	34	34	6	4	4	4	38	2	38	
	工 業（総ゴ）	40	41	40	38	2	2	2	2	40	0	40	
高知追手前	普 通	280	200	199	195	85	1	1	1	196	84	196	
吾北	普 通	40	14	14	13	27	1	1	0	13	27	13	
	普 通	140	176	176	140	なし				140	0	140	
高知丸の内	チャレンジ A	10	17	17	11					11	0	11	
	音 楽（音楽）	30	12	11	11	19	0	0	0	11	19	11	
高知小津	普 通	240	261	255	241	なし				241	0	241	
	理 数（理数）	40	27	26	26	14	1	1	1	27	13	27	
高知国際	普 通	200 (200)	171	168	171	29	3	3	3	174	26	174	
	国 際（グローバル）	80 若干名	9	9	6	なし				82	0	82	
	DP	[20] 若干名	3	3	1					16		16	
伊野商業	商 業（キャリア）	160	72	72	63	97	25	23	19	82	78	81	
春 野	総 合	160	116	115	111	49	25	25	25	136	24	136	
高 岡	普 通	80	26	25	23	57	5	4	2	25	55	25	
高知海洋	水 産（海洋）	80	26	25	22	58	6	6	5	27	53	27	
	船舶職員養成課程	[10]	11	11	3	7	1	1	1	4	6	4	
須崎総合	普 通	120	81	80	79	41	8	8	8	87	33	87	
	工 業（機械系）	機械 造船	20	13	13	13	7	0	0	0	13	7	13
	工 業		20	12	12	12	8	2	2	2	14	6	13
	工 業（電情系）	電気 電情	20	4	4	4	16	0	0	0	4	16	4
	工 業		20	4	4	4	16	0	0	0	4	16	4
	工 業（シ工系）	機制 住環	20	5	5	5	15	0	0	0	5	15	5
	工 業		20	9	9	9	11	0	0	0	9	11	9
佐 川	普 通	80	18	18	18	62	4	4	4	22	58	22	
窪 川	普 通	80	16	16	15	65	2	2	2	17	63	17	
構 原	普 通	80	13	13	10	53	1	1	0	27	53	27	
四 万 十	普 通	40	4	3	3	35	2	2	2	7	33	7	
	普 通（自環コース）	40	1	1	1	35	0	0	0	5	35	5	

- （注1） 安芸、高知国際、中村の（ ）内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
- （注2） 高知国際高校DPコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の〔 〕は内数。
- （注3） 横北、構原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
- （注4） 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
- （注5） A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

No. 2 全日制

学 校 名		学科 (科) 名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 總 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
				志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
大 方	普 通		80	38	37	35	45	5	5	5	40	40	40
幡多農業	農 業 (園シス)		40	19	19	17	23	0	0	0	17	23	17
	農 業 (アグリ)		40	16	16	15	25	1	1	1	16	24	16
	農 業 (グリーン)		40	6	6	6	34	1	1	1	7	33	7
	農 業 (コーディネート)		40	26	26	24	16	0	0	0	24	16	24
中 村	普 通		200 (161)	137	137	132	29	2	2	2	173	28	172
西土佐 宿毛工業	普 通		40	15	15	13	28	2	2	2	15	25	15
	工 業 (機械)	機械	20	15	15	14	6	1	1	0	14	6	14
	工 業 (自動車)	自動車	20	15	15	14	6	1	1	0	14	6	14
	工 業 (建設)	土木	20	18	18	18	2	0	0	0	18	2	18
	工 業 (建築)	建築	20	9	9	9	11	1	1	1	10	10	10
	工 業 (電気)		40	2	2	2	38	0	0	0	2	38	2
	工 業 (情技)		40	21	21	21	19	0	0	0	21	19	21
宿 毛	總 合		120	58	58	56	64	3	3	3	59	61	59
清 水	普 通 (未来)		80	0	0	0	58	2	2	2	24	56	24
県 立 計			4810 (4669)	3066	3030	2807	1812	203	200	180	3184	1631	3181

高知商業	商 業 (総合マネ)	140	174	174	140	なし				140	0	140
	商 業 (社会マネ)	70	83	83	70	なし				70	0	70
	商 業 (情報マネ)	35	40	40	35	なし				35	0	35
	商 業 (スポマネ)	35	36	36	35	なし				35	0	35
市 立 計		280	333	333	280	0	0	0	0	280	0	280

合 計	5090 (4949)	3399	3363	3087	1812	203	200	180	3464	1631	3461
-----	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注2) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和7年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況 (学校別)

学 校 名	学科 (科) 名	入 学 定 員	特別選抜			
			特 別 選 抜 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数
横 北	普 通	80	入学定員内	15	15	15
樺 原	普 通	80	入学定員内	17	17	17
四 万 十	普 通	40	入学定員内	2	2	2
	普 通 (自環コース)	40	入学定員内	5	5	4
清 水	普 通 (未来)	80	入学定員内	22	22	22
合 計		320		61	61	60

令和7年度 高知県公立高等学校入学選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学 校 名	学科名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
中 芸	普 通（昼間）	40	7	6	6	34	6	6	6					12	28	12
	普 通（夜間）	40 [8]				40 [8]	6 [1]	6 [1]	6 [1]	34	0	0	0	6	34	6 [1]
高 知 北	普 通（昼間）	80	98	92	81	なし								81	0	81
	普 通（夜間）	40 [8]				40 [8]	14 [0]	13 [0]	10 [0]	30	2	2	2	12	28	12 [0]
合 計		200 [16]	105	98	87	114 [16]	26 [1]	25 [1]	22 [1]	64	2	2	2	111	90	111 [1]

（注1） 成人の〔 〕は内数

定時制

学 校 名	学科（科）名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
室 戸	普 通	40 [8]				40 [8]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
山 田	普 通	40 [8]				40 [8]	6 [0]	6 [0]	6 [0]	34	1	1	1	7	33	7 [0]
高知東工業	工 業（機械）	40 [8]				40 [8]	7 [0]	7 [0]	5 [0]	35	3	3	3	8	32	8 [0]
高知工業	工 業（機械）	40 [20]				40 [20]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	1	1	1	3	37	3 [0]
	工 業（電気）	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	2	3	37	3 [0]
	工 業（土木）	40 [20]				40 [20]	4 [1]	4 [1]	4 [1]	36	0	0	0	4	36	4 [1]
	工 業（建築）	40 [20]				40 [20]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	3	3	3	5	35	5 [0]
高 岡	普 通	40 [8]				40 [8]	7 [0]	7 [0]	5 [0]	35	3	3	3	8	32	8 [0]
須崎総合	普 通	40 [8]				40 [8]	5 [1]	5 [1]	5 [1]	35	0	0	0	5	35	5 [1]
佐 川	普 通	40 [8]				40 [8]	5 [0]	5 [0]	5 [0]	35	0	0	0	5	35	5 [0]
大 方	普 通	40 [8]				40 [8]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
宿 毛	普 通	40 [8]				40 [8]	6 [0]	6 [0]	6 [0]	34	0	0	0	6	34	6 [0]
清 水	普 通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
合 計		520 [152]				520 [152]	51 [2]	51 [2]	47 [2]	473	13	13	13	60	460	60 [2]
高知商業	商業（商業）	40 [8]				40 [8]	7 [0]	7 [0]	5 [0]	35	4	4	3	8	32	8 [0]
合 計		560 [160]				560 [160]	58 [2]	58 [2]	52 [2]	508	17	17	16	68	492	68 [2]

（注1） 成人の〔 〕は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 出題する内容が一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和7年3月4日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,461人 (3,585人)	61人 (88人)	3,522人 (3,673人)

(注) ()内は令和6年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	23.4 (21.7)	22.2 (19.0)	18.8 (18.3)	14.0 (19.9)	18.6 (22.9)	97.0 (101.6)

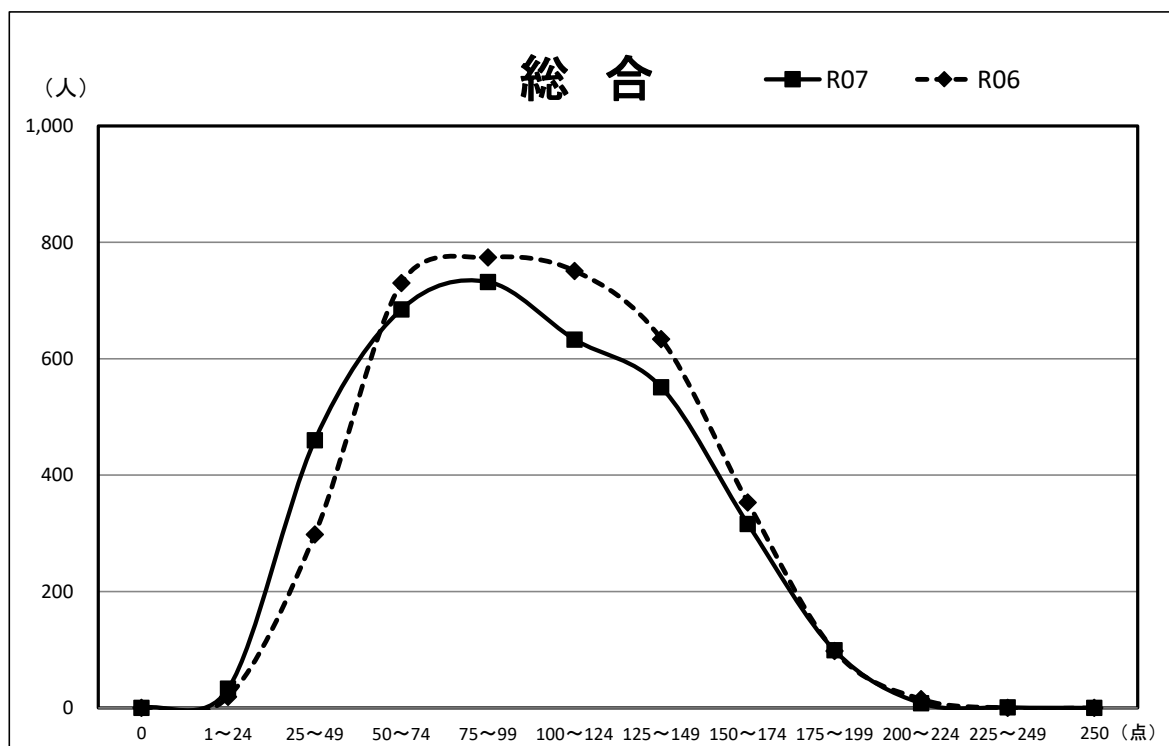
(注) ()内は令和6年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

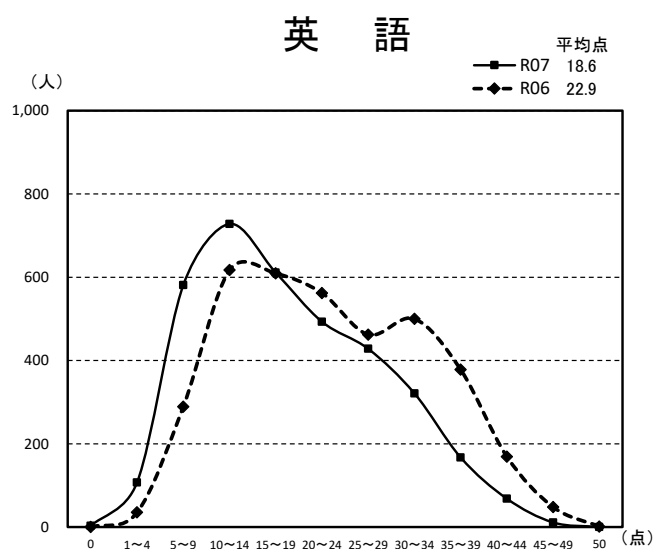
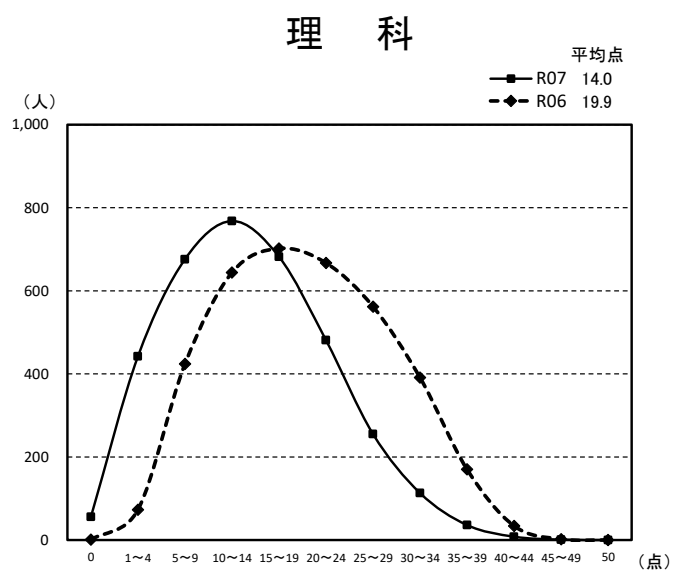
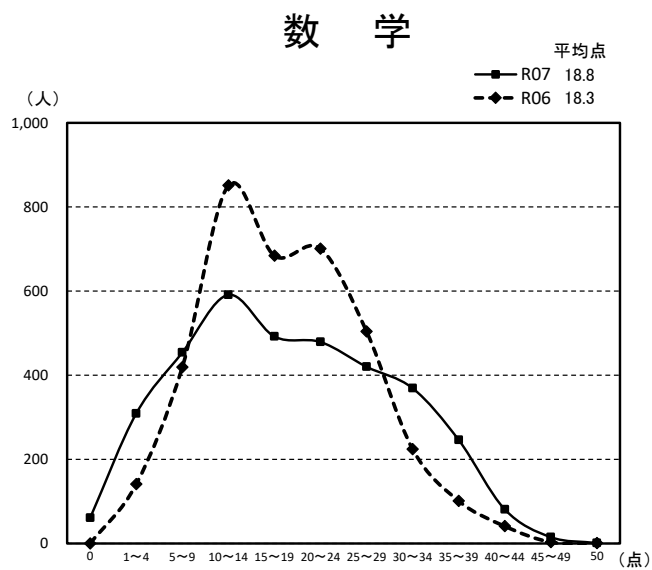
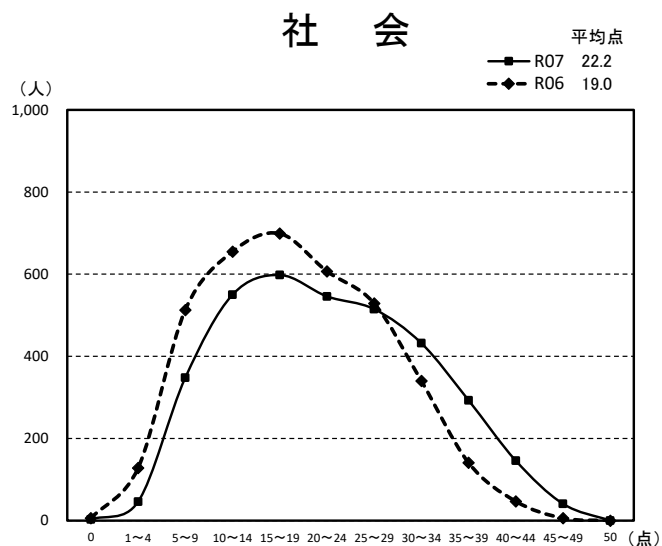
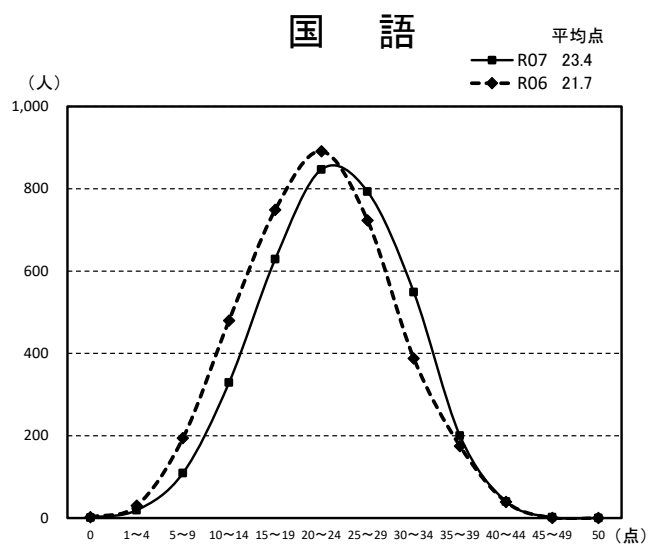
得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～ 4	0 (1)	65～ 69	146 (149)	130～134	127 (144)	190～194	13 (14)
5～ 9	1 (1)	70～ 74	145 (164)	135～139	109 (126)	195～199	5 (6)
10～14	2 (1)	75～ 79	130 (156)	140～144	101 (104)	200～204	2 (7)
15～19	9 (5)	80～ 84	161 (158)	145～149	87 (113)	205～209	4 (5)
20～24	21 (11)	85～ 89	144 (143)	150～154	87 (96)	210～214	1 (1)
25～29	58 (22)	90～ 94	153 (164)	155～159	72 (91)	215～219	0 (2)
30～34	67 (34)	95～ 99	144 (153)	160～164	55 (64)	220～224	1 (0)
35～39	104 (59)	100～104	133 (164)	165～169	52 (54)	225～229	1 (0)
40～44	120 (77)	105～109	133 (141)	170～174	50 (48)	230～234	0 (0)
45～49	111 (106)	110～114	125 (170)	175～179	45 (41)	235～239	0 (0)
50～54	161 (140)	115～119	110 (144)	180～184	22 (24)	240～244	0 (0)
55～59	116 (132)	120～124	132 (132)	185～189	14 (13)	245～250	0 (0)
60～64	117 (145)	125～129	127 (147)				

(注) ()内は令和6年度の値である。

平均点 97.0 (昨年度101.6)



(4)教科別得点度数グラフ



(5) 過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
令和3年度	22.6	24.9	21.1	22.0	23.6	114.2
令和4年度	22.4	23.4	16.2	19.9	20.6	102.5
令和5年度	21.3	25.1	19.2	20.5	24.6	110.7
令和6年度	21.7	19.0	18.3	19.9	22.9	101.6
令和7年度	23.4	22.2	18.8	14.0	18.6	97.0
前年比増減	+1.7	+3.2	+0.5	-5.9	-4.3	-4.6

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
令和3年度	0	1	1	1	2	5
令和4年度	0	0	0	0	0	0
令和5年度	0	1	0	0	3	4
令和6年度	0	0	1	0	1	2
令和7年度	0	0	1	0	0	1
前年比増減	±0	±0	±0	±0	-1	-1

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
令和3年度	1	0	23	1	0	25
令和4年度	1	2	79	6	3	91
令和5年度	2	1	35	12	0	50
令和6年度	2	6	0	1	0	9
令和7年度	1	3	61	56	3	124
前年比増減	-1	-3	+61	+55	+3	+115

※令和6年度学力検査における、数学の2点の人数は28名

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
令和3年度	19 (0.52)	705 (19.41)
令和4年度	10 (0.27)	1,067 (28.87)
令和5年度	28 (0.79)	758 (21.39)
令和6年度	15 (0.41)	1,047 (28.51)
令和7年度	9 (0.26)	1,178 (33.48)
前年比増減	-6	+131

※ 令和3年度までは平成20年度告示、令和4年度から平成29年度告示の中学校学習指導要領に基づく出題。

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国 語

1 出題のねらい

言葉の特徴や使い方，話や文章に含まれている情報の扱い方，我が国の言語文化に関する知識及び技能と，国語で正確に理解し適切に表現する思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 言葉の特徴や使い方，話や文章に含まれている情報の扱い方，我が国の言語文化については，漢字の読み書き，書写，文法の基礎的な事項，情報と情報との関係に関する事項，伝統的な言語文化に関する事項などについての力をみるものとした。
- (2) 「書くこと」については，文章の展開に即して内容を捉えたり，文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで，目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (3) 「読むこと」については，文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに，文章の構成や論理の展開などに注意しながら，内容を正確に理解する力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は23.4点で，昨年度より1.7点上がった。漢字の読み，行書の基礎的な書き方，情報の取り出しについては一定の力が認められる。文法の基礎的な事項，情報と情報の関係についての理解が十分とは言えない。また，目的に応じて文章の内容を把握して要約することに課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平 均 点	23.4	21.7	21.3	22.4	22.6

- (2) 正答率の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
言葉の特徴や使い方・ 漢字・書写・表現の技法	55.1	57.8	56.0	57.3	56.6
現 代 文	38.8	26.0	26.7	30.8	24.1
古 典	49.4	39.8	31.7	51.6	44.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞ 目的に応じて必要な情報に着目して内容を把握し，要約する力を身に付けさせること。

【□】(五) 4

空欄に当てはまる言葉について，文章中の情報に着目して内容を把握し，必要な情報を取り出しているかを見取る思考・判断・表現の問題であった。正答率は 59.3%（223 人），誤答率は 31.1%（117 人），無答率は 9.6%（36 人）。誤答例は，大きく 4 つに分類された。

- ① 【資料】から俳句以外を抜き出したもの 28.2%（33 人）
- ② 【資料】から俳句を抜き出したもの 10.2%（12 人）
- ③ 【会話】から俳句以外を抜き出したもの 15.4%（18 人）
- ④ 【会話】から俳句を抜き出したもの 43.6%（51 人）

①から③については，設問の「空欄に当てはまる最も適切な俳句を，【会話】中の推敲の過程をふまえて」という条件が読み取れていなかった。④については，12 行から成る【会話】中の情報を基に解答しているが，切れ字の位置や季語の誤答が多く，情報を整理しながら読むことができていなかったと考えられる。複数の情報を含む短い文や文章などを，整理しながら読むことを通して，内容を捉える力を身に付けさせるとともに，文章の中心的な部分の情報を整理して，簡潔に要約する力を高める継続的な指導が必要である。

問 題			正 答	正答率	誤答率	無答率
一	(一)	1	しんぼく	66.4	30.9	2.7
		2	つらぬ (く)	89.1	10.6	0.3
	(二)	1	鉄棒	70.2	27.9	1.9
		2	延 (ばす)	57.2	36.7	6.1
	(三)		さんずい	91.0	7.4	1.6
	(四)	1	イ	80.1	19.9	0
		2	試み	14.6	84.1	1.3
			目指そ	9.6	88.0	2.4
	(五)	1	ウ	36.4	63.6	0
		2	ア	27.1	72.9	0
		3	いわなくても	70.5	23.4	6.1
		4	炎屋や波にすくわれ砂おどる	59.3	31.1	9.6
		5	エ	44.7	55.3	0
二	(一)	エ	88.5	11.2	0.3	
	(二)	ア	83.5	16.5	0	
	(三)	(例)人間の能力を高めることにも、誤った方向に導くことにもなり得るということ。	2.4	85.4	7.7	
			部分点 4.5			
(四)	ウ	34.6	65.1	0.3		
三	(一)	(例)日本人は、明確に言語化したものを伝達するのではなく、個人の中で暗黙知が形成されるのを待つから。	15.2	55.3	6.6	
			部分点 22.9			
	(二)	(例)筆者は、議論の目的は、双方の考えの根拠を明らかにし、違いを違いとして認め、何が問題でどうしたら納得する点を見つけられるかを探ることだと捉えている。私も言葉にして伝えないと相違点や共通点を見いだせないと思うので、議論することは必要だと思う。	8.5	48.7	14.6	
			部分点 28.2			
四	(一)	とびそこないて	77.4	21.3	1.3	
	(二)	今日一提ばかりの水	9.6	77.6	12.8	
	(三)	イ	72.9	25.8	1.3	
	(四)	イ	37.5	60.9	1.6	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した376人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 22.2 点で、昨年度より 3.2 点上がった。日常の社会生活と知識が結びついた問題については、正答率が高い傾向にある。しかし、全分野を通して基本的事項の定着が十分ではない。また、資料から情報を読み取り論述する問題については、問題の意図を正しく捉え、情報を正確に読み取る力や、根拠をもって論理的に表現する力に課題がある。

- (1) 平均点(50 点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平 均 点	22.2	19.0	25.1	23.4	24.9

- (2) 正答率の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
地理的分野	48.9	36.8	65.7	54.3	46.2
歴史的分野	42.8	37.1	31.8	49.7	43.3
公民的分野	53.5	42.0	55.2	47.4	61.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解させること。【1】1(1)、【2】3 など】

【1】1(1)、【2】3それぞれの問題の誤答として、「親潮」「千島海流」「対島海流」、「執権」「老中」が多く見られた。【1】1(1)では海流の種類や特徴について、【2】3では各時代の政治体制やしくみについて、整理できていないことが背景にあると考えられる。これらを正確に理解させるためには、図や写真等の資料を利用し、関連した情報にも着目させることや、異なる時代の政治体制を比較し、共通点や相違点を挙げさせ、それぞれの時代の特色と違いに気付かせることが重要である。また、学習内容を表現・共有する場面において、基本的事項の正確な理解や定着について見取り、指導に生かすことが大切である。

- ☞② 問題の意図を正しく捉え、資料から情報を正確に読み取り、根拠をもって論理的に表現する力を付けさせること。【1】2、【4】1(4)、【6】3(2)など】

【1】2では、「北海道の耕地面積は全国の耕地面積の3分の1である」のような、資料から情報を正確に読み取ることができていない誤答が多く見られた。また、【4】1(4)と【6】3(2)では、問題の意図を正しく捉えることができておらず、資料の中の情報を書き出しただけの解答が多かった。問題の意図を理解して情報を正確に読み取るためには、教科書等にある資料から注目すべき情報に気付き、情報の意味を既習事項と繋げて考察する経験を重ねさせることが必要である。そのうえで、整理・分析・考察した情報を用いて表現する活動を繰り返し、根拠をもって論理的に表現する力を身に付けさせる指導をしていくことが重要である。

問 題			正 答				正答率	誤答率	無答率
1	1	(1)	記号	C	名称	黒潮	66.0	33.5	0.5
			記号	D	名称	対馬海流	30.3	68.4	1.3
		(2)	(例) 冬に降雪量（降水量）が多く，農作業ができないため				29.3	60.8	6.4
			部分点				3.5		
	(3)	ウ				44.1	55.6	0.3	
		2	(例) 北海道は，全国に比べて農家1戸当たりの耕地面積が大きく，大型機械を使った農業が行われている。				25.5	61.5	4.5
	部分点				8.5				
3	イ				64.9	34.3	0.8		
2	1	イ				75.3	24.2	0.5	
	2	ウ				49.5	50.2	0.3	
	3	管領				22.6	70.0	7.4	
	4	イ				45.4	53.0	1.6	
	5	吉宗による幕府の政治改革		享保の改革			41.0	39.9	19.1
		新田開発の目的		(例) 年貢の収入を増やして，財政を立て直すため。			31.4	49.4	16.5
		部分点				2.7			
3	1	(例) 私が家族や学校，地域という集団に属しているように，人間はさまざまな社会集団の中で生きているから。				25.5	45.5	12.0	
		部分点				17.0			
	2	ウ				46.3	52.9	0.8	
	3	憲法の番人				53.2	37.2	9.6	
	4	ウ				86.4	13.6	0	
5	イ， エ				30.6	69.4	0		
4	1	(1)	焼畑農業				73.1	18.9	8.0
		(2)	ア				59.6	40.4	0
		(3)	イ				70.7	29.3	0
		(4)	(例) 日本企業の進出により設立された製造業の企業数が，2001 年度に比べて 2022 年度は増加している。B 国の製造業における月額賃金が日本と比べて安いことが，理由として考えられる。				31.9	52.7	13.0
	部分点				2.4				
2	ウ				42.0	57.5	0.5		
5	1	自由党				40.7	48.1	11.2	
	2	ア				71.0	28.2	0.8	
	3	(例) 有権者の資格が満 25 歳以上のすべての男子に与えられると定められたから。				14.4	68.3	16.0	
		部分点				1.3			
	4	C				66.5	33.0	0.5	
5	イ → ア → エ → ウ				12.8	86.7	0.5		
6	1	ア				90.2	8.5	1.3	
	2	発券銀行				46.3	47.8	5.9	
	3	(1)	ウ				69.7	29.0	1.3
		(2)	(例) 高齢者を支える現役世代の負担が増えるのを抑えることができるから。				33.0	51.3	8.8
部分点				6.9					

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 376 人分の答案を
対象として算出した。

数 学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」から出題し、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能と、数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、図形の内容、図形の性質や関係についての理解の程度、数学的な推論に基づいて考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数を用いて事象を捉え表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「データの活用」では、目的に応じて収集した資料を処理し、その資料の傾向を読み取り判断する力、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は18.8点で、昨年度より0.5点上がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われる。文字を用いた式の計算や処理をする力、文字を用いて表現する力は十分とは言えない。また、思考・判断・表現する力を問う問題において、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考え説明できないといった課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平均点	18.8	18.3	19.2	16.2	21.1

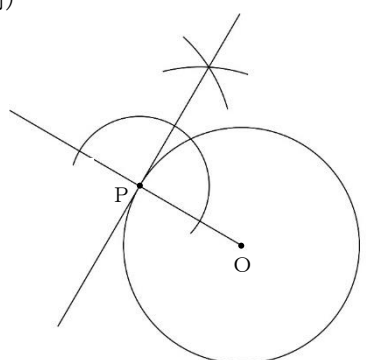
- (2) 正答率の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
数と式	45.8	53.2	50.3	44.3	66.5
図 形	15.7	11.0	23.0	13.3	20.5
関 数	25.9	11.0	29.9	33.1	31.1
データの活用	48.6	34.8	48.7	35.6	39.5

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞ 事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考え説明できるようにさせること。【1】(6)、【3】、【6】(1)

論理立てて説明できていない解答や、事柄が成り立つ根拠が示されていない解答が多く見られた。【1】(6)では、「直角三角形だから $(\sqrt{10})^2 + (3\sqrt{2})^2 = (2\sqrt{7})^2$ が成り立つ。計算すると $10 + 18 = 28$ になるから、与えられた3辺からなる三角形は直角三角形である」というような、与えられた3辺からなる三角形が直角三角形であることを前提に説明をしている誤答が多く見られた。また、「直角三角形の3辺の比は $1:2:\sqrt{3}$ であるから」という記述をしている誤答も少なくなかった。【3】(1)では、エまで正解していた受検生のうち約25%が、オについて誤答または無答であった。11の倍数になることを示すために、 $11 \times (\text{整数})$ という形の式で表せばよいことを理解できていないか、目的に応じて式を変形することに課題があると考えられる。【3】(2)は、受検生の約半数が無答であった。また、「もとの2桁の自然数を ab 、十の位と一の位を入れかえた数を ba と表す」誤答も少なくなかった。【6】(1)では、根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったり、正しい数学用語や記号が使えていない解答が見られた。間違えた問題について、正しい解答と共に、なぜそのミスをしたのか、どの部分で誤解があったのかを自分の言葉でノートに書き留め、後で見返す際の参考にさせる取組や、自らの考えを数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を、一層充実させることが大切である。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率
1	(1)	①	−5	92.6	6.9	0.5
		②	$\frac{5x+13y}{12}$	81.9	16.5	1.6
		③	$4b^3$	60.4	35.6	4.0
		④	$\frac{7\sqrt{15}}{5}$	38.3	50.3	11.4
	(2)	$x=14$		62.2	28.5	9.3
	(3)	$b=126-a$		36.7	49.7	13.6
	(4)	$a=-3$		27.7	52.9	19.4
	(5)	イ, エ		40.2	59.5	0.3
	(6)	(例) $(\sqrt{10})^2=10, (2\sqrt{7})^2=28, (3\sqrt{2})^2=18$ より $(\sqrt{10})^2+(3\sqrt{2})^2=28$ $(2\sqrt{7})^2=28$ したがって、 $(\sqrt{10})^2+(3\sqrt{2})^2=(2\sqrt{7})^2$ が成り立つ。 よって、3 辺の長さが $\sqrt{10}$ cm, $2\sqrt{7}$ cm, $3\sqrt{2}$ cmである三角形は直角三角形である。		6.1	31.4	29.0
部分点 33.5						
(7)	$\frac{4}{9}$		37.0	49.4	13.6	
(8)	(例) 		42.3	37.8	19.9	
2	(1)	14 人		42.8	52.9	4.3
	(2)	ウ, エ		47.3	51.4	1.3
	(3)	ア		67.3	31.9	0.8

(次のページに続く)

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率	
3	(1)	ア	1000	52.2	38.8	9.0	
		イ	100				
		ウ	1001				
		エ	110				
		オ	$91x+10y$	38.8	43.9	17.3	
	(2)	(例) もとの自然数の十の位の数をもとを a 、一の位の数をもとを b とすると もとの自然数は $10a+b$ 入れかえた数は $10b+a$ と表される。 もとの自然数から入れかえた数をひくと 36 になることから $(10a+b)-(10b+a)=36$ $9a-9b=36$ $a-b=4$ a は 1 から 9 までの自然数なので、 $a-b=4$ となるような a 、 b のうち、 $10a+b$ が最も大きくなるのは $a=9$ 、 $b=5$ のときである。 したがって、もとの自然数から入れかえた数をひくと 36 になる最も大きな自然数は 95 である。		3.7	34.6	50.5	
				部分点 11.2			
	4	(1)	$600a+300b\leq 5000$		32.7	55.9	11.4
		(2)	普通自転車 2 台、子供用自転車 4 台		22.3	48.7	29.0
	5	(1)	①	$a=\frac{1}{4}$	40.2	38.3	21.5
②			4	22.9	35.9	41.2	
(2)		$a=\frac{5}{16}$		0.5	42.0	57.5	
6	(1)	【証明】(例) $\triangle BGD$ と $\triangle FGH$ において 三角形 ABC は正三角形であり、正三角形の 3 つの角は等しいから $\angle DBG=\angle HFG$ ……………① 対頂角は等しいから $\angle BGD=\angle FGH$ ……………② ①、②より 2 組の角がそれぞれ等しい。 したがって $\triangle BGD\sim\triangle FGH$		10.9	32.2	37.0	
	(2)	$\frac{36}{5}$ cm		3.5	57.4	39.1	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 376 人分の答案を対象として算出した。

理科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象についての理解、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能と、観察、実験などを行って自然の事物・現象を科学的に探究する力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、電気とそのエネルギー、水溶液、光の反射・屈折、凸レンズの働き、酸・アルカリ、中和と塩などについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、生物の特徴と分類の仕方、惑星と恒星、月や金星の運動と見え方、生物と細胞、細胞分裂と生物の成長、気象観測、前線の通過と天気の変化、日本の気象などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は14.0点と昨年度に比べ5.9点下がった。第1分野・第2分野ともに、科学用語や観察・実験の技能、科学的現象についての知識の定着が十分ではない。また、実験結果をもとに思考・判断して表現する問題や、事象が生じる原因を説明する問題では、問題文の指示を正しく読み取ったり、文章で適切に表現したりするうえで課題がみられる。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平 均 点	14.0	19.9	20.5	19.9	22.0

(2) 正答率の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
第1分野	18.4	37.9	48.1	30.2	44.8
第2分野	43.3	47.0	39.8	47.9	50.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

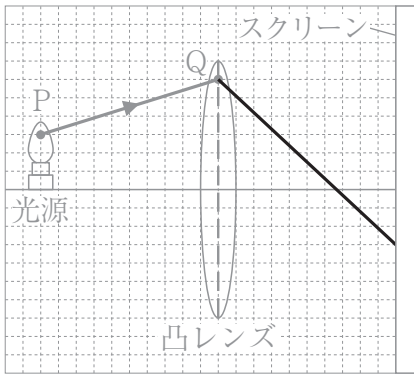
☞① 知識・技能を、思考・判断・表現の基盤としてだけでなく、理科における情報伝達の手段として、確実に定着させること。【1】1・3, 【4】3・5, 【5】3

電気・電力・電力量・電気量や、溶質・溶媒・溶液、オホーツク海気団・シベリア気団・小笠原気団など、類似した用語の区別があいまいで、基礎的な知識・技能が十分に定着していない。また、電力と電力量、エネルギー、仕事、仕事率や、質量と質量パーセント濃度など、数値で表される概念についての理解が不足しているため、与えられた数値を用いて、どのようにして単位を変換するのか、どのように加減乗除すれば目的の数値を求めることができるのかを判断できていない。元素記号の習得も不十分で、物質やイオンを化学式で表したり、化学反応式を書いたりするうえでの妨げとなっている。正しい知識・技能を身に付けていることは、思考・判断・表現するうえでの大前提であるが、情報を伝え合う際にも、生徒や教員の間で基本的な用語や概念が共有されていなければ、考えを正しく表現したり理解したりすることが困難になる。授業と家庭学習によって繰り返しインプット・アウトプットさせる、言葉で端的に説明させる・書かせる、相互に関連付けて理解させる等の活動を行うことにより、知識・技能を確実に定着させるとともに、活用できる水準にまで高めさせる必要がある。

☞② 学習の基盤となる言語能力を身に付けさせること。【1】2(2), 【2】2, 【4】1, 【5】3(2)

思考・判断したことを文章で表現する問題において、指定された語句や内容が書かれていない、説明を求められた事象とは別の事柄について説明している等、問題文の指示を十分に読み取れていないことに起因する誤答が目立つ。言語能力は学習の基盤となる重要な力であり、理科の授業においても、聞く・読む・話す・書く活動をより一層充実させ、受容した情報を正しく解釈し、科学用語を用いて伝えたいことを過不足なく表現できるように指導されたい。その際、生徒の一方向的な発信で終わることなく、教師が適宜評価を行いフィードバックすることが重要である。

問 題			正 答				正答率	誤答率	無答率	
1	1	あ	電力量				34.0	64.4	1.6	
		い	400				7.7	80.6	11.7	
		う	3600				9.3	83.0	7.7	
	2	(1)	(例) Aは水中, Bは陸上で生活する動物					51.6	44.9	3.5
		(2)	特徴	(例) 外骨格をもち, からだとあしに節がある。				14.4	77.4	8.2
			名称	節足動物				52.1	42.3	5.6
	3	(1)	え	溶質	お	溶媒	45.5	50.5	4.0	
		(2)	34.2 g					0.5	89.1	10.4
	4	(1)	太陽系					60.6	36.2	3.2
		(2)	か	地球	き	木星	64.1	29.8	6.1	
		(3)	ア					76.6	23.1	0.3

2	1	(1)						10.1	84.3	5.6
		(2)	15 cm					8.8	83.0	8.2
		(3)	ウ					18.6	80.9	0.5
	2	仮説 2 が正しい						19.7	71.3	9.0
		理由	(例) 光は物体の表面で入射角と反射角が等しくなるように反射するから。							
	3	1	あ	イ	い	イ	う	ア	32.7	67.3
2		記号	a	名称	葉緑体			46.0	51.9	2.1
3		e → i → h → f → g						64.6	34.6	0.8
4		プレパラート		X			60.7	38.0	1.3	
		図 2 の部分		C						
5		176 時間後						13.6	74.2	12.2

問 題			正 答				正答率	誤答率	無答率	
4	1	(例) ろ紙に電流が流れやすくするため。						35.1	51.3	13.6
	2	ア						34.6	64.6	0.8
	3	性質	酸性				7.2	83.5	9.3	
		イオン	H ⁺ , Na ⁺ , Cl ⁻							
	4	あ	水素				5.3	89.9	4.8	
		い	水酸化物							
		う	$\frac{1}{3}$							
5	HCl + NaOH → NaCl + H ₂ O						21.8	47.9	30.3	
5	1	75 %						59.3	30.3	10.4
	2	あ	気圧		い	低気圧		31.9	66.5	1.6
		う	気温		え	温暖前線		31.1	66.0	2.9
	3	(1)	気団	シベリア 気団				26.6	68.3	5.1
		(1)	天気	(例) 乾燥し晴れる。						
	(2)	(例) 勢力が同じくらいの, 暖かく湿った小笠原気団と冷たく湿ったオホーツク海気団が日本上空でぶつかるから。						7.2	63.5	29.3

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 376 人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

英語の特徴やきまりに関する知識及び技能と、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域における、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする力、相手からの質問に答えたりする力などをみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、日常的な話題について、書かれたものから必要な情報を読み取ったり文章の概要を捉えたりする力、社会的な話題について、文章の要点を捉える力などをみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、正しい語順で文を構成する力、場面や状況に応じて適切な語句や文を選んだり書いたりする力、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝えたり、社会的な話題に関して考えたことを書いたりする力などをみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 18.6 点で、昨年度より 4.3 点下がった。どの領域においても昨年度より点数が下回っているが、特に日常的な話題について、情報を聞き取る力が十分でない。また、聞いたり読んだりした話題に対して自分の考えを英語で書く際には、考えを構成するのに必要な情報まで十分に把握することができていない。また、基本的な語彙や文法事項が定着しておらず、自分の表現したいことを正確に書くことに課題がある。

- (1) 平均点(50 点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平 均 点	18.6	22.9	24.6	20.6	23.6

- (2) 正答率の推移

年 度		R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
理解の能力	聞くこと	46.6	72.0	58.2	53.8	57.6
	読むこと	50.5	55.8	58.0	44.3	52.6
表現の能力	書くこと	17.7	20.0	29.3	23.6	27.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 正確な発信のための言語能力をつけさせること。【1】C No.2, 【4】1

自分の状況を判断し、基本的な文法を活用して表現する問題に対する解答のうち、「設問に反応しているが設問を理解していない。」と考えられる解答が 26.1%である。目的や場面、状況などに応じて、書かれている情報や考えなどを理解できていないことが原因として考えられる。知識・技能の定着を基に思考力・判断力・表現力が育成されていくことを踏まえて、言語材料については、生徒の発達段階に応じて、使用側面に配慮しつつ段階的に指導することや、使用場面に工夫をしながら繰り返し指導することが重要である。リスニング問題では、聞き取った表現を自分の状況と関連付けて解答する問題の正答率が 5.9%であった。例えば具体的な課題等を設定し、主語を I や You で表現させることに終始せず、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを正確に捉え、それに適切に応じて多様な表現をさせる工夫が必要である。

- ☞② 正しい英語に触れさせる時間を最大限にとること。【2】2

整序問題では、単語の組み合わせの判断を 1～2 語のみで行い、残りの語を正しく並べられていない解答が目立つ。生徒の言語の使用場面や働きに対する理解が不十分である。生徒が正しい英語を聞いたり、声に出して読んだりする時間を最大限に確保する工夫が不可欠である。

問 題			正 答	正答率	誤答率	無答率
1	A	No. 1	イ	87.2	12.8	0
		No. 2	ア	42.0	58.0	0
		No. 3	エ	27.4	72.3	0.3
	B	No. 1	イ	55.0	44.7	0.3
		No. 2	ウ	25.0	75.0	0
	C	No. 1	ウ	83.8	16.2	0
		No. 2	ア	5.9	93.6	0.5
	D	(例) You should sing Japanese songs and learn Japanese words from them. If you practice every day, your Japanese will be better.	13.3	42.3	22.3	
部分点 22.1						
2	1	(1)	forest	22.6	49.7	27.7
		(2)	answer	15.2	56.9	27.9
	2	(1)	glad that you helped me	36.7	57.4	2.7
				部分点 3.2		
		(2)	have you decided to join	26.6	55.1	1.3
				部分点 17.0		
	(3)	us a lot of homework to do	29.5	68.1	1.6	
			部分点 0.8			
	3	(1)	ウ	39.9	60.1	0
		(2)	エ	28.2	71.5	0.3
3	1	ウ	59.3	40.7	0	
	2	(1)	イ	35.6	64.4	0
		(2)	エ	56.1	43.6	0.3
		(3)	ウ	67.0	32.2	0.8
	3	(1)	エ	59.9	39.6	0.5
		(2)	ウ	56.5	42.7	0.8
		(3)	ウ → イ → エ → ア	52.1	46.8	1.1
4	1	1 文目 (例) I want to take Angela to the park near our school because there are beautiful flowers.	9.6	35.9	17.0	
			部分点 37.5			
		2 文目 (例) She can draw pictures there.	6.1	38.0	18.9	
			部分点 37.0			
	2	(例) By using fossil fuels for a long time, our environment gets worse. Some animals have disappeared because of it. We have to think about the better ways to use more green energy.	0	19.9	21.9	
			部分点 58.2			

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 376 人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内 1－7－5 2

電 話 (088) 821-4907

F A X (088) 821-4547